



# 五中だより

貝塚市立第五中学校

校訓《勤勉・自律・敬愛》

令和2年8月18日 第5号

## 校長室から ～ 75年目の夏に～

17日から2学期が始まりました。猛暑のまっただ中での始業式、そのあとの授業開始、と、これまでに経験のない日程でのスタートです。授業の様子をのぞくと、生徒の皆さんは少しお疲れ気味の姿も見えますが、なんとか頑張っています。

「これまでとはちがう夏」に、私も今年は出かけることもなく、体力を落とさないために毎日少しの運動とたっぷりの野菜を食べることを心掛けて過ごしました。ほかには、今年は戦後75年という年でもあったので、家で関係する情報や番組を見て過ごしました。

この季節が来ると戦争を考える番組が増えることもあり、毎年いくつかの戦争中の出来事を知ってきました。それ以外にも、これまで多くの方と出会い、直接、戦争中や戦後の体験を聞かせていただきました。旅先などで現地の平和資料館を訪れたこともよくあります。それでも、まだまだ知らないことがたくさんあって、毎年、これは知らなかったと、気づくことがあります。今年も様々な番組を見て、時を経て75年たった今だから伝えられることもあるのだと感じました。

今年見た番組の中で印象に残っている一つは、アウシュビッツ跡地で戦後発見されたメモについて取材した『アウシュビッツ 死者たちの告白』です。私は中学時代に「アンネの日記」を読んだことに始まり、ユダヤ人迫害やアウシュビッツでの出来事については展示や映像、文学等を通じてある程度知っていたつもりでしたが、今回の内容は初めて知ることでした。それは、同じユダヤ人でありながらガス室への誘導や死体の処理をおこなうことになった人たち「ゾンダーコマンド」の残したメモをもとにした取材内容でした。(今日深夜に再放送ありのようです)



いつかここで起こっている事実を伝えるために、死を覚悟してメモを土に埋めた人たちの思いは、直接本人から語られることはありませんでした。でも、発見時は損傷が激しく解読できな

かったメモが、時を経て、最新の技術を使って読み解かれました。書かれている事実の断片をつなげていくと、当時の状況がわかってきます。それは想像しきれないほど心が痛む内容ですが、知っておきたいことだと思いました。こういった資料を丁寧に保存して読み解き、伝えることの意味も感じました。

この時期は、新聞にも毎日のように大小さまざまな記事で戦争を体験した方の声が載せられています。直接お話を聞くことはなかなか難しい今ですが、そんなところからも知ることはできます。

学校での平和学習は、日本の話を中心に身近なところから進めています。この時期は、どの学年でも平和について学ぶ時間を設けています。これから大人になっていく世代にも、戦争の中で起こったことやその前後の世の中のことを、たくさん知ってほしいと思います。そのことを知ったうえで、今起こっていることと未来をしっかりと見つめていけるように。

## ～ 生徒指導から ～

1学期お疲れさまでした。先が見えない4月から何とか今日までできましたね。2学期に向けて、短い夏休みでしたがリフレッシュできましたか？

さて、「整える」という話を終業式でしました。全校集会での整列も‘整えた’状態で進めていくことで、単に見栄えだけの問題だけでなく、話もしっかり聞くことができますね。

次は、体育館横のくつ箱を整えましょうね。



「整える」ということは目に見えることだけではなく、‘気持ち’の部分もあります。気持ちの整理整頓は難しいですね。最近では「マインドセット」とも言います。気持ちが行動を左右する部分がとてもあります。

2学期は長い期間になります。自分の力だけではどうにもいかないこともあるかと思います。その際は是非相談してください。

一緒に整えていきましょう。